

■ ネットワークストレージサービス

ご利用マニュアル

スピーバーネットワークストレージサービスをご利用いただき、まことにありがとうございます。

こちらのマニュアルでは、ネットワークストレージサービスをご利用いただくにあたり、フォルダのセキュリティ等の具体的な操作方法について解説いたします。

下記注意事項をお読みの上、目的に応じてご利用ください。

《注意事項》

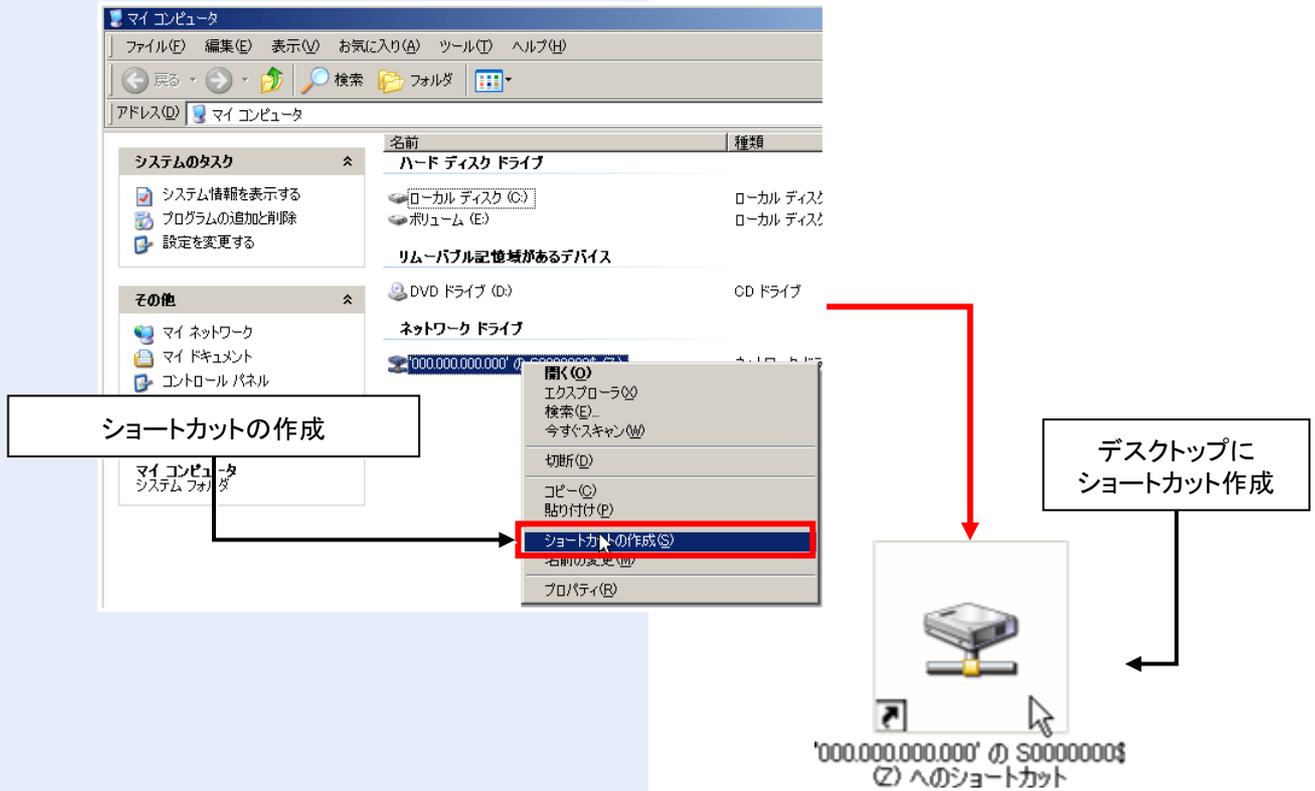
- ストレージサーバー上で削除されたデータは**復旧できません**。
- 最上位のフォルダを全てのユーザーから『読み取り拒否』に設定してしまうと、サーバー内のフォルダは全て非表示となりますので、ご注意ください。([セキュリティとアクセス制限](#)の項参照)
- ストレージサーバー内に**実行ファイル(exeファイル等)**を置くことはできません。
これは、ストレージサーバー内でのプログラム実行を許可していないためです。あらかじめご了承ください。
- Windows XP Home Edition 及び Windows Vista Home Basic にはアクセス権の設定機能が搭載されていないため、ご利用の際はOSの仕様により一部機能に制限がかかる場合があります。
- ユーザーローカルPC内フォルダを共有化した場合、**参照先のPCが起動済み、かつUSBキーが挿し込まれていない場合はフォルダの参照ができません**。
- データ容量やご利用のネットワーク環境によって、データのアップ・ダウンにかかる時間が異なる場合があります。
- 通信はすべて暗号化されているため暗号化されていない通信とは、データのアップ・ダウンにかかる時間が異なる場合があります。
- USBキーは戦略物資扱いなどの理由で持ち込むことができない国があります。

ストレージサーバーの基本的な運用方法

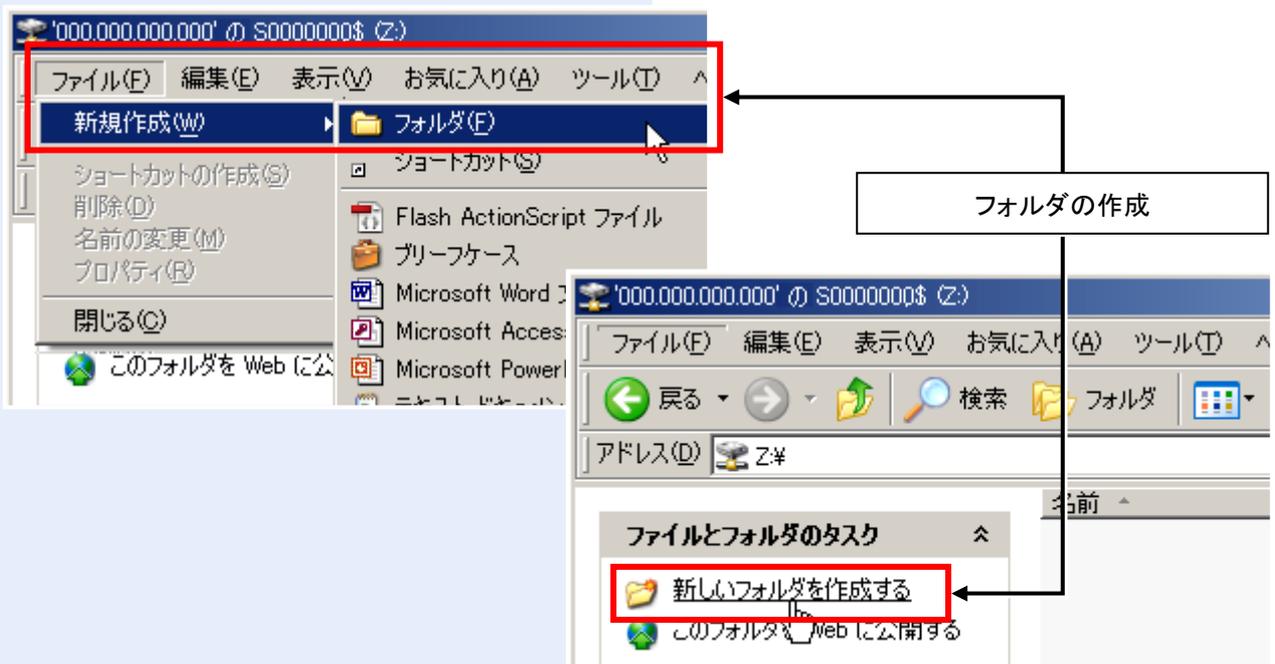
ネットワークドライブの割り当てが完了し、作業領域を確保しましたら、作業領域の実際のご利用方法についていくつかの解説をいたします。

▷ ショートカットとフォルダの作成

ネットワークドライブにある『Z:』ドライブを選択して右クリックし、『ショートカットの作成』をクリックします。



『Z:』ドライブは、『C:』ドライブと同様にご利用いただけますので、データを格納するためのフォルダを作成してください。



▷ ファイルの移動とファイルの共有

実際のストレージサーバーのご利用方法は、普段PCで行っているものと変わりはありません。

共有したいファイルをドラッグし、ストレージサーバー内の保存したいフォルダ内にドロップする、というのが基本的なご利用方法です。



フォルダにユーザーごとのセキュリティを設定(後述)しない限りは、ストレージサーバーを利用できる全てのユーザーがファイルを共有することができます。

一旦PCをシャットダウンすると、PC起動後にストレージサーバーへアクセスする際に、セキュリティのため再度パスワードの入力を求められます。
ここで入力するパスワードは、メールにてお知らせしましたストレージサーバー用パスワードです。

セキュリティとアクセス制限

ここでは、フォルダのセキュリティについて解説いたします。

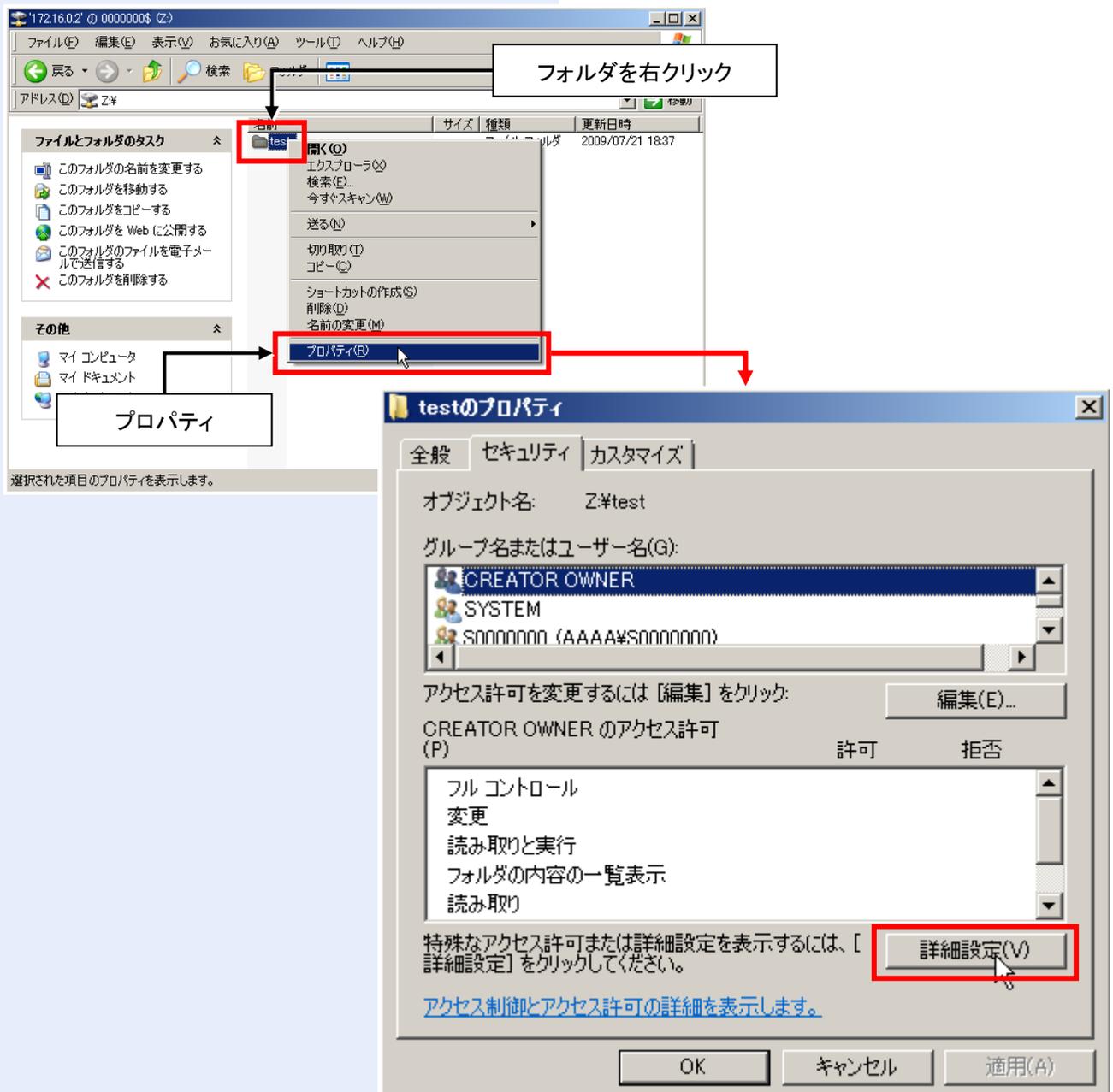
セキュリティをかけることにより、特定のユーザーにのみ閲覧・編集可能なフォルダを作成することができます。これにより、取引先等の社外とのデータ共有も安全に行うことができます。

ユーザー権限は同等なため、全てのユーザーは他ユーザーに対してセキュリティ設定を行う権限を所持します。ただし、ユーザーに対してセキュリティ設定をするためには、ユーザーIDと対応するパスワードが必要です。

このため、ユーザーIDとパスワードを管理する人間が、管理者といった扱いになります。管理にはご注意ください。

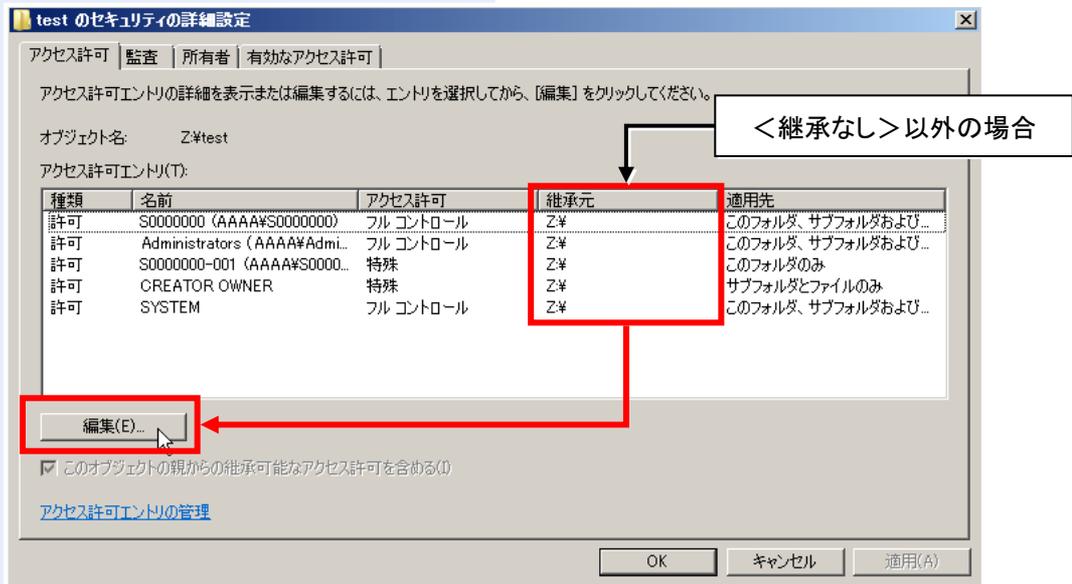
▷ フォルダのアクセス制限 ①

まずは、セキュリティをかけたいフォルダのアクセス許可の継承元を確認します。対象となるフォルダを右クリックし、『プロパティ』を選択してください。

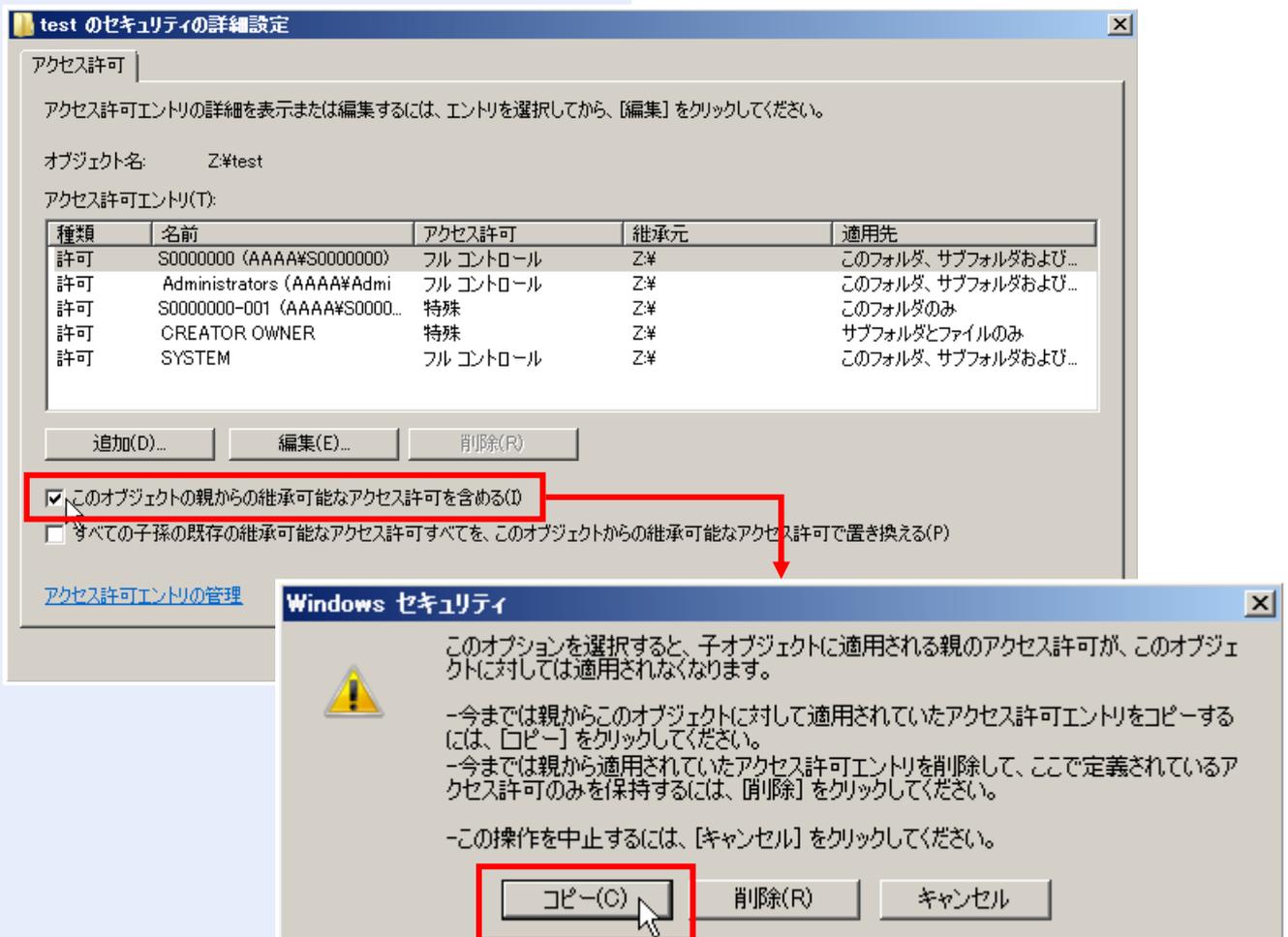


『セキュリティ』タブを選択し、『CREATOR OWNERのアクセス許可』にある『詳細設定』をクリックします。

『(フォルダ名)のセキュリティの詳細設定』ダイアログが開きますので、『編集』ボタンをクリックします。
『継承元』に<継承なし>以外の文字列が入っていましたら、『編集』ボタンをクリックして詳細設定画面を開きます。
※<継承なし>となっていた場合は、『[フォルダのアクセス制限 ②](#)』へ進んでください。



『このオブジェクトの親からの継承可能なアクセス許可を含める』をクリックをしてチェックをはずすと、『Windows セキュリティ』ダイアログが開きますので、『コピー』をクリックしてください。



『継承元』が<継承なし>の表記になっているのを確認し、以後のダイアログでは全て『OK』をクリックしてください。

The first screenshot shows the 'test のセキュリティの詳細設定' dialog box. The '継承元' column in the table is highlighted with a red box, and a callout box points to the '<継承なし>' value. The 'OK' button is also highlighted with a red box.

種類	名前	アクセス許可	継承元	適用先
許可	S0000000 (AAAA*S0000000)	フル コントロール	<継承なし>	このフォルダ、サブフォルダおよび...
許可	Administrators (AAAA*Admi	フル コントロール	<継承なし>	このフォルダ、サブフォルダおよび...
許可	S0000000-001 (AAAA*S0000...	特殊	<継承なし>	このフォルダのみ
許可	CREATOR OWNER	特殊	<継承なし>	サブフォルダとファイルのみ
許可	SYSTEM	フル コントロール	<継承なし>	このフォルダ、サブフォルダおよび...

The second screenshot shows the same dialog box with the '監査' tab selected. The '継承元' column is again highlighted with a red box, and the '<継承なし>' value is pointed to by the callout box. The 'OK' button is highlighted with a red box.

種類	名前	アクセス許可	継承元	適用先
許可	S0000000 (AAAA*S0000000)	フル コントロール	<継承なし>	このフォルダ、サブフォルダおよび...
許可	Administrators (AAAA*Admi	フル コントロール	<継承なし>	このフォルダ、サブフォルダおよび...
許可	S0000000-001 (AAAA*S0000...	特殊	<継承なし>	このフォルダのみ
許可	CREATOR OWNER	特殊	<継承なし>	サブフォルダとファイルのみ
許可	SYSTEM	フル コントロール	<継承なし>	このフォルダ、サブフォルダおよび...

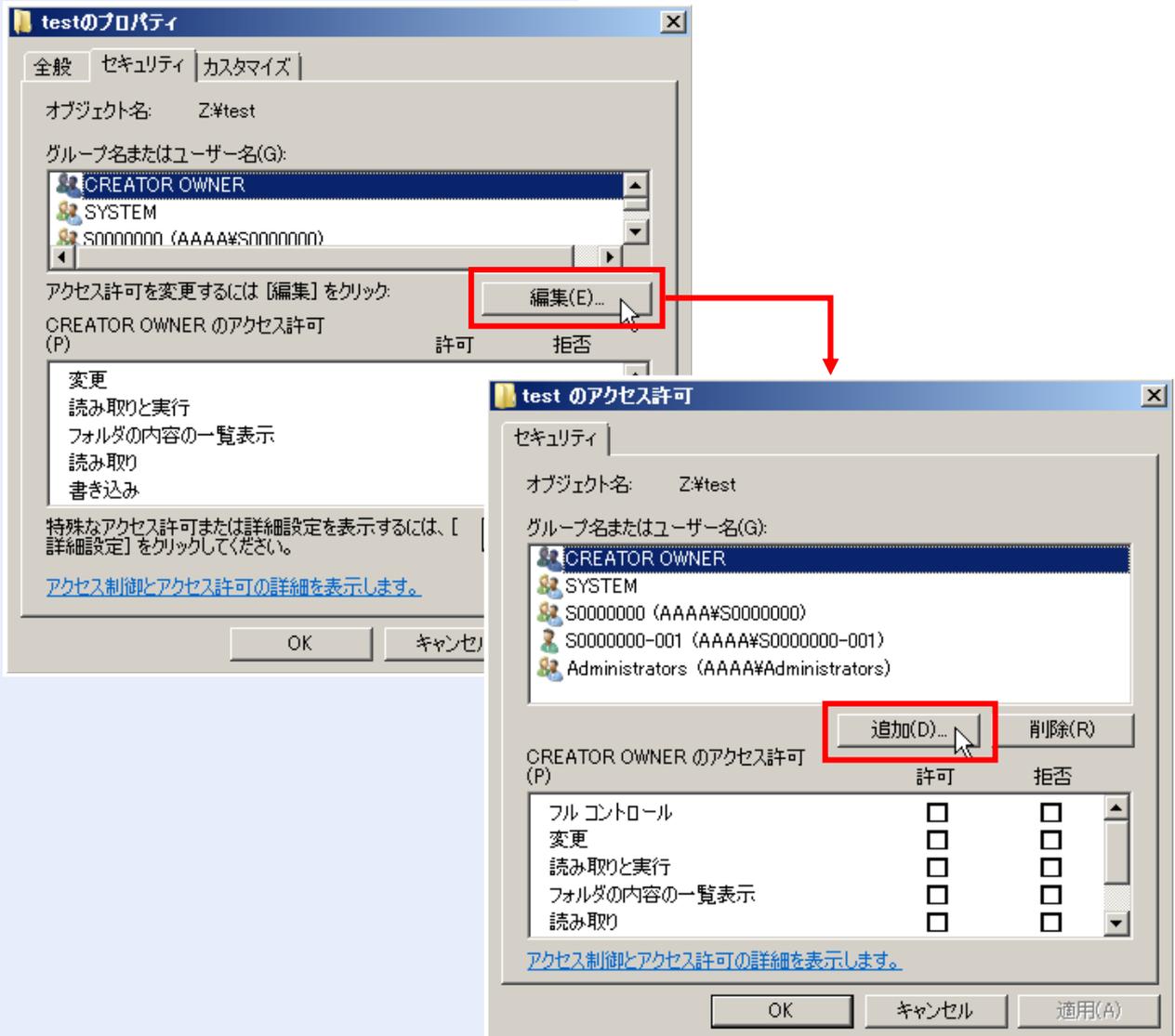
The third screenshot shows the 'testのプロパティ' dialog box, 'セキュリティ' tab. The 'CREATOR OWNER' user is selected. The 'OK' button is highlighted with a red box.

一旦この作業を行えば、同様の手順で設定を変更しない限り設定は保存されます。

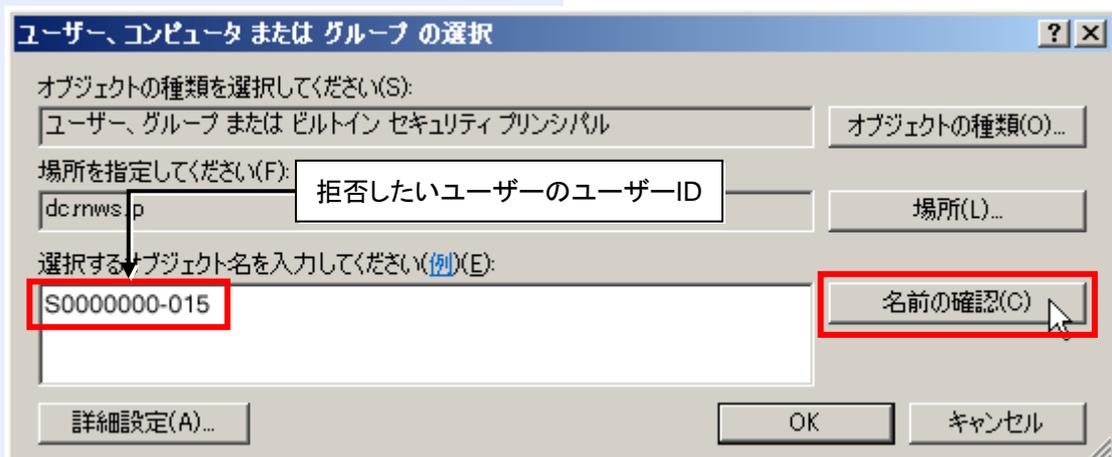
▶ フォルダのアクセス制限 ②

次に、セキュリティをかけたいフォルダに、参照を拒否するユーザーを設定します。先程と同様に、対象となるフォルダを右クリックし、プロパティ画面を開きます。

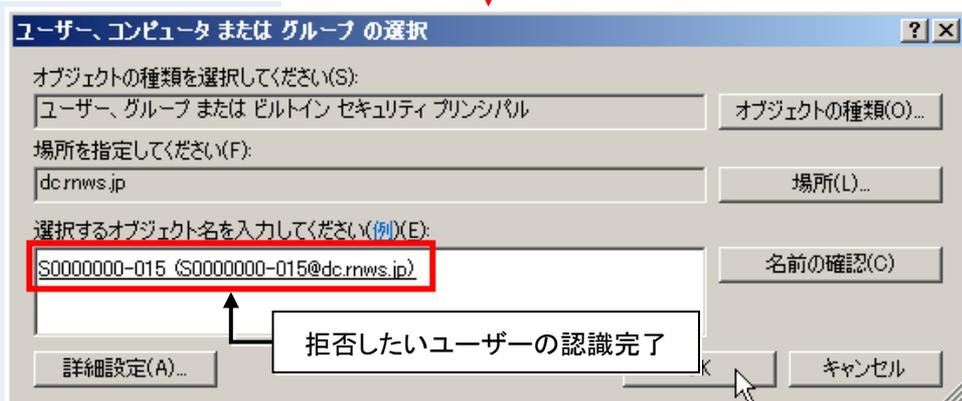
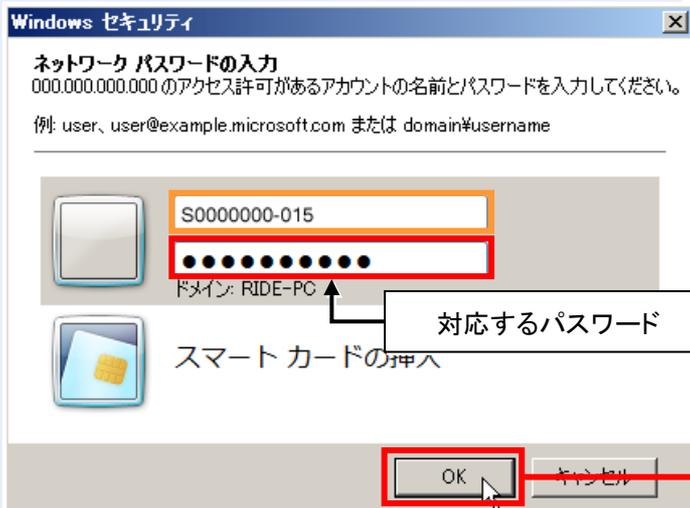
『セキュリティ』タブから『グループ名またはユーザー名』の『編集』ボタンをクリックし、『追加』ボタンをクリックしてください。



『選択するオブジェクト名を入力してください』欄に拒否設定をしたいユーザーIDを入力し、『名前の確認』をクリックします。



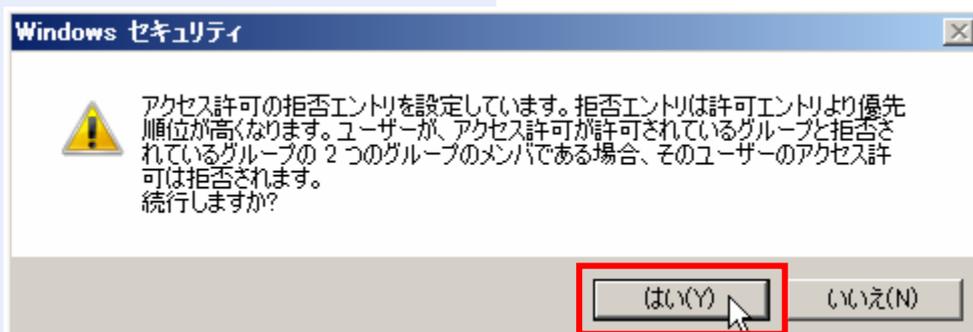
『Windows セキュリティ』ダイアログが開きますので、ユーザーIDに対応するパスワードを入力して『OK』をクリックし、認識されれば『選択するオブジェクト名を入力してください』欄にユーザーが追加されます。



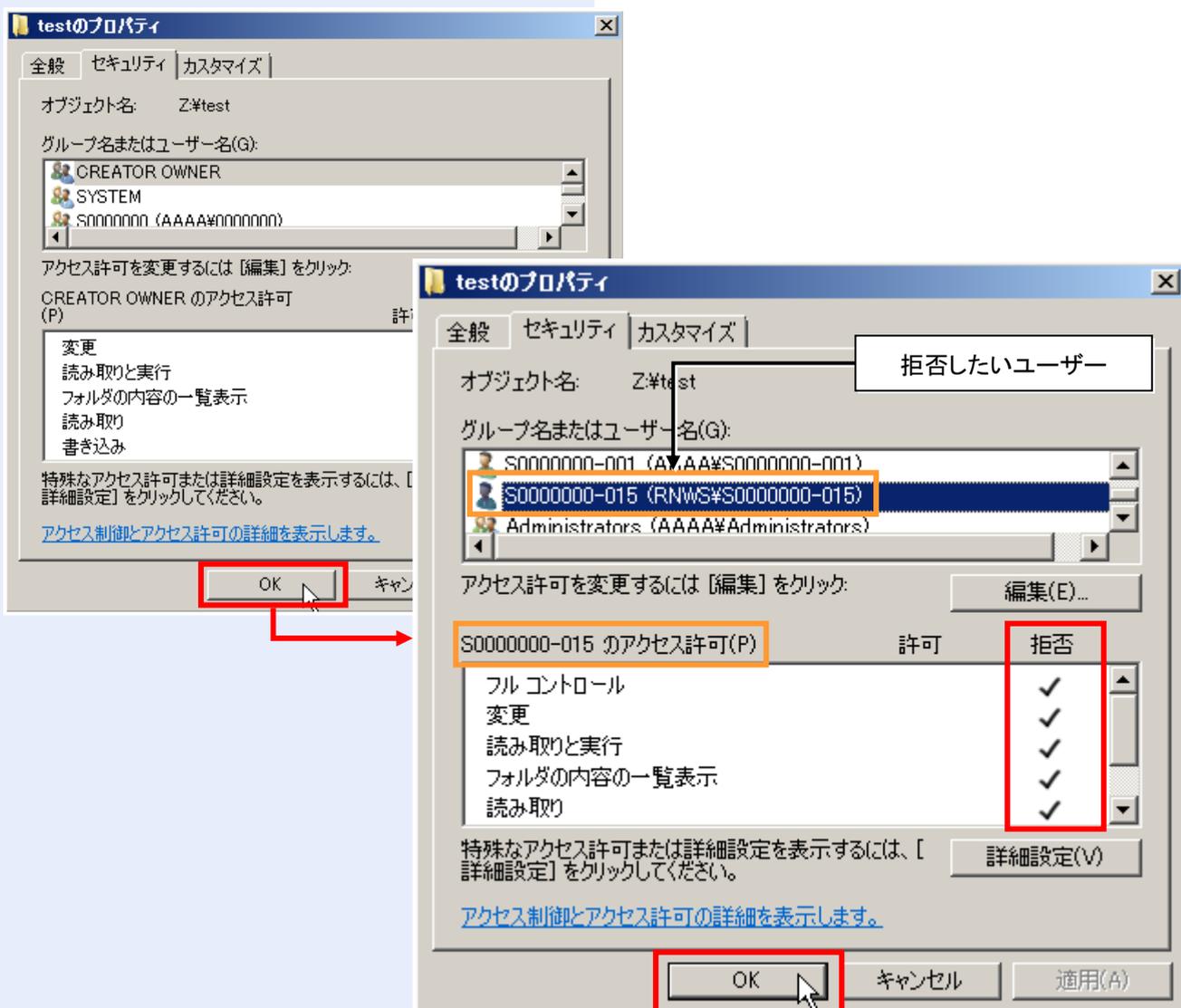
拒否したいユーザーのアクセス許可が、すべて『拒否』にチェックが入っているのを確認して『OK』をクリックします。



『Windows セキュリティ』ダイアログにて、ユーザー拒否設定の確認を求められますので、『はい』をクリックしてください。



フォルダのプロパティ画面に戻りますので、『OK』をクリックします。『グループ名またはユーザー名』に追加された拒否したいユーザーのアクセス許可が『拒否』になっていれば、このユーザーは対象のフォルダにアクセスすることはできません。『OK』をクリックして、特定のユーザーからのフォルダ参照拒否設定は完了です。



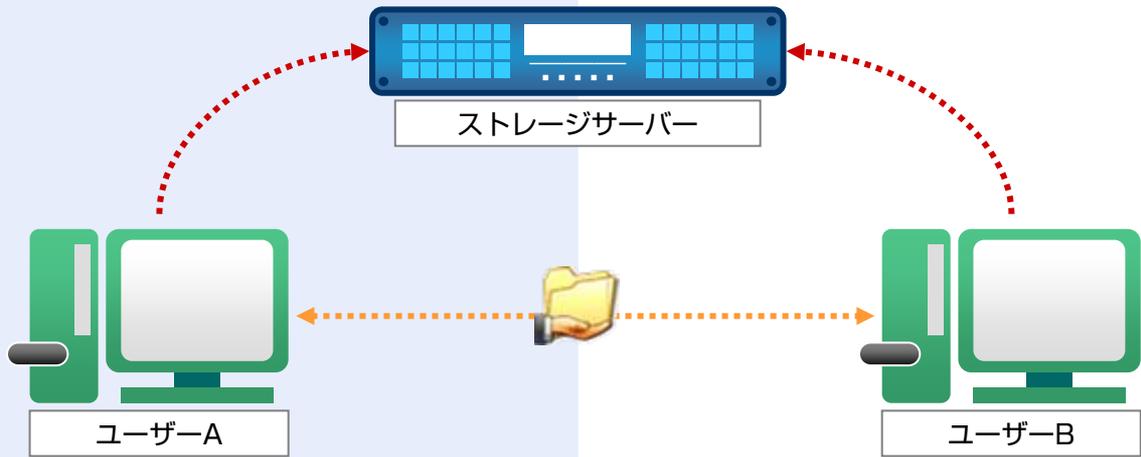
最上位の階層にあるフォルダに対し、全てのユーザーからの拒否設定を行った場合、該当フォルダ以下が消えてしまいます。この場合、フォルダは削除されたわけではなく非表示状態となっておりますので、復旧させることは可能です。事務局までお問い合わせください。

以上で、フォルダのアクセス制限の設定は完了です。

個人PC内に置かれたファイルの共有

ネットワークストレージサービスでは、通常のLAN環境で行われる『個人PC内フォルダの共有』を行うことができます。これは、個人PC内に置いているフォルダに共有設定をかけることにより、ストレージサーバーに置かなくともグループ内のユーザーは該当フォルダを参照することができる機能です。

メリット(手軽に利用できる)・デメリット(参照先PCが起動していないと使えない)をご理解の上、目的に応じてご利用ください。



個人PC間の共有フォルダの参照には、ストレージサーバーアクセス時のパスワード入力は不要です。

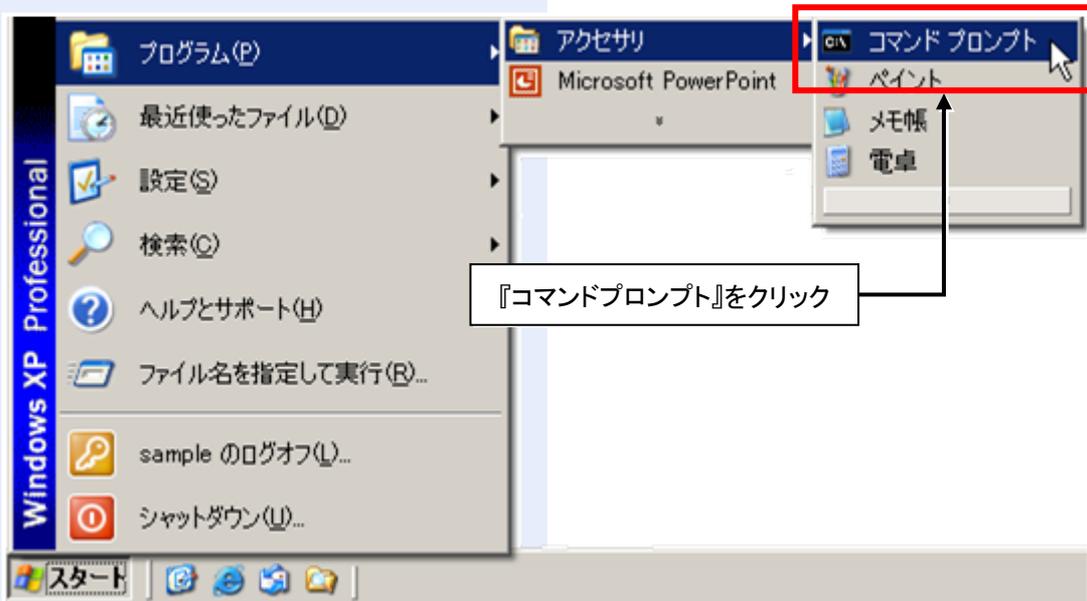
▶ 個人PC内に置かれたファイルの共有化

共有対象とするフォルダを右クリックし、フォルダのプロパティ画面で『共有』タブを開きます。

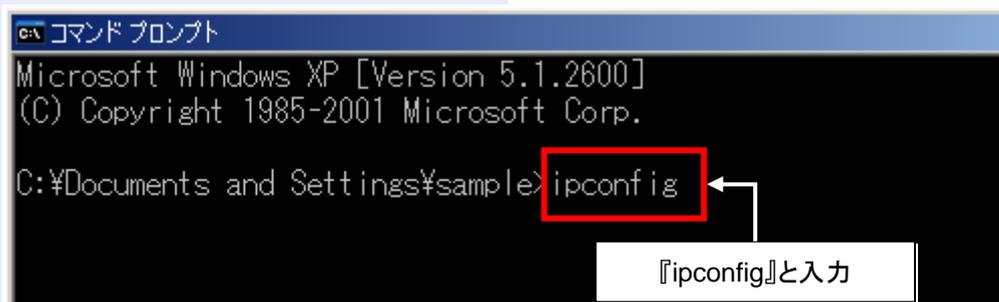
『このフォルダを共有する』にチェックを入れ、『OK』をクリックすると、フォルダが  から  のように表示が変わります。これでフォルダの共有化は成功です。

The screenshot shows the 'sampleのプロパティ' (Properties of sample) dialog box with the '共有' (Sharing) tab selected. A red box highlights the '共有' tab. Another red box highlights the 'このフォルダを共有する(S)' (Share this folder) radio button, which is selected. Below it, the '共有名(H)' (Share name) is set to 'sample'. A red arrow points from a folder icon on the left to the dialog box, with a label '右クリックでプロパティ' (Right-click for properties). Another red arrow points from the 'OK' button to a folder icon on the right, with a label 'フォルダ表示が変化' (Folder display changes). The 'OK' button is also highlighted with a red box.

次に、他ユーザーが該当フォルダを参照するために、現在利用中のUSBキーに割り当てられたIPアドレスを確認します。Windowsの『プログラム』⇒『アクセサリ』⇒『コマンドプロンプト』を開いてください。



『コマンドプロンプト』を開いたら、『ipconfig』と入力し、Enterキーを押します。



『Ethernet adapter L2Connect ネットワーク接続』にある『IP Address』が、現在利用しているUSBキーに割り当てられたIPアドレスです。このIPアドレスを他のユーザーに通達することにより、他ユーザーは共有フォルダを参照することができますようになります。

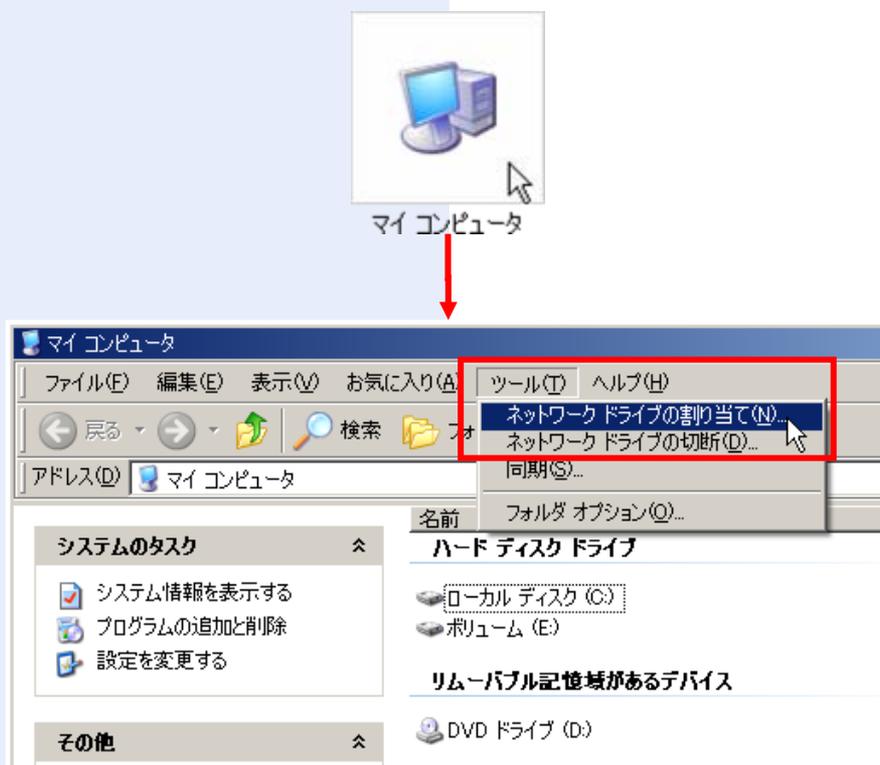


尚、このIPアドレスは文字通り『USBキーに割り当てられたIPアドレス』のため、異なるUSBキーを挿した状態でコマンドプロンプトから確認をすると、異なるIPアドレスが表示されます。

▷ 個人PC内で共有化されたフォルダの参照

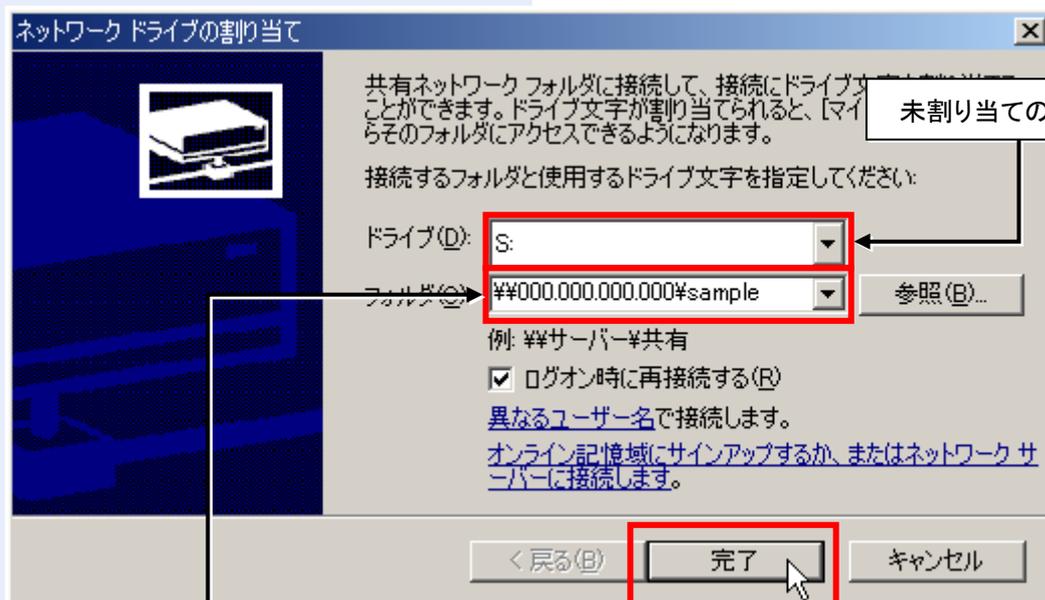
他ユーザーの個人PC内で共有化されたフォルダを参照するには、『インストールマニュアル』で解説しました『ネットワークドライブの割り当て』と同様の作業を行います。

まずは、『マイコンピュータ』を開き、『ツール』から『ネットワークドライブの割り当て』を選択してください。



ストレージサーバーを割り当てた時と同様、『ドライブ』と『フォルダ』を以下を参考に設定してください。

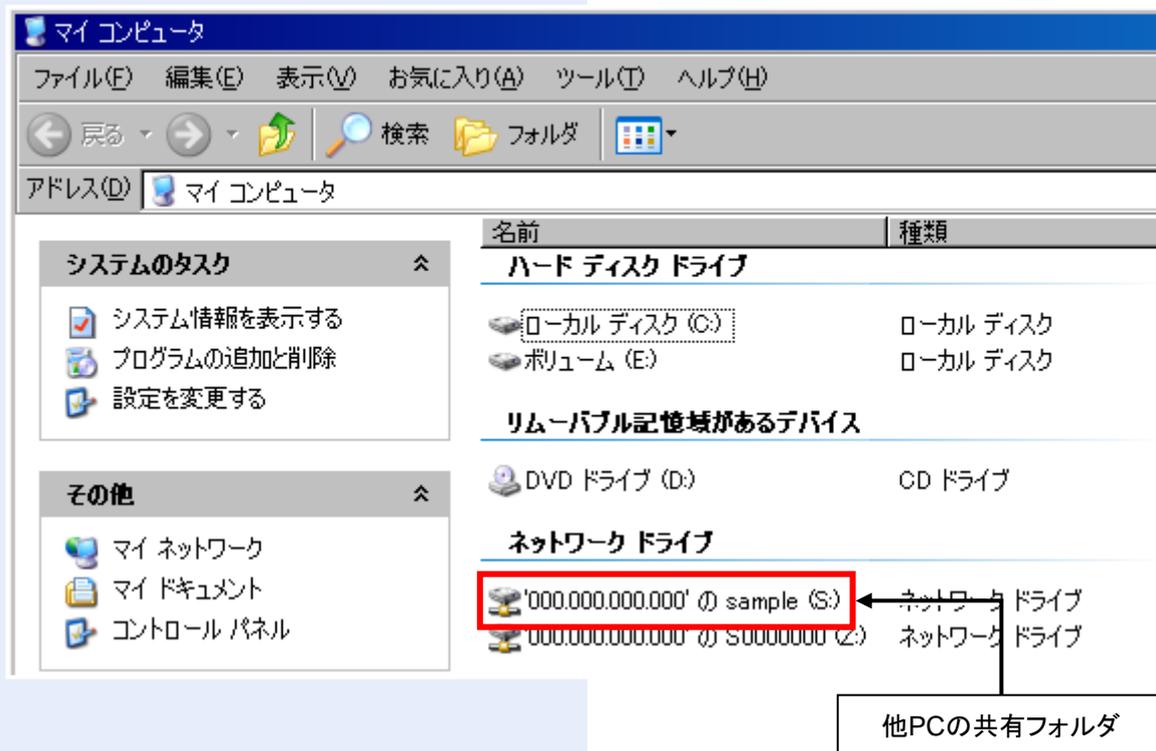
例) 共有化されたフォルダ情報 ⇒ IPアドレス:000.000.000.000 フォルダ名:sample



¥¥(参照するPCのIPアドレス)¥(参照フォルダ名)※

※参照元から通達してもらう必要があります。

『マイコンピュータ』の『ネットワークドライブ』に共有フォルダが追加されれば完了です。



尚、この機能は参照先PCが起動+USBキーが挿し込まれていない場合はご利用いただけないため、大事なデータの共有にはストレージサーバーのご利用を推奨いたします。



USBキーに割り当てられるIPアドレスは、完全に固定されたものではありません。

他の作業に問題はないにもかかわらず、個人の共有フォルダにアクセスできない等の場合は、共有先のIPアドレスが変更になっている可能性があります。

この場合は、再度コマンドプロンプトにてIPアドレスをご確認の上、設定を変更してください。

以上で、個人PC間でのフォルダ共有設定は完了です。